

いろいろな人たちと 知り合いたくて

因幡の祭典に 一役

鳥取県東部を舞台に、いよいよ始まった2009鳥取・因幡の祭典。各地でさまざまな取り組みが行われていますが、河原町でもちよつとユニークな活動が始まりました。「手打ちうどん体験」です。取り組みのは河原町を拠点に活動する「かたくりの会」。

かたくりの会は、平成17年に結成されました。「ボランティアを頼まれることが多くなつて、最初は3人で立ち上げたんです。主に取り組んで

かたくりの会



西尾 栄 さん
Sakae Nishio

北村 ひとみ さん
Hitomi Kitamura

いるのは、幼稚園の活動のお手伝いです」と会長の西尾栄さんは話します。仕事を辞めた人や家庭の主婦など、10人で活動しており、河原幼稚園での農業体験の手伝いや地域のイベントへ出店をします。会の名称は、かたくりの花からとりました。考案者でもある西尾さんは「下を向いたけなげな花なんです。根はしっかりと張っているんです」と由来を語ります。

うどんに取り組む

「因幡の祭典で手打ちうどん

の体験観光をしたいんですが、協力してもらえませんか？」。こんな依頼が河原城風土資産研究会からあったのが昨年のこと。手打ちそば体験はあちこちにありますが、手打ちうどん体験はめったにありません。さっそく西尾さんはメンバーと話し合い、手打ちうどん体験に取り組むことにしました。

体験の会場は、河原町中央公民館の隣の「河原歴史民俗資料館」。かやぶき屋根の立派な古民家です。「文化財指定の建物ですが、地域のコ



4月には、はじめてのお客さんをお迎えしました

ミュニティとして歴史・文化の継承と、体験観光の実施で交流人口も拡大されます。人の出入りは建物の保存にもよい効果があるとのこと。教育委員会の許可も得られました」と主催の河原城風土資産研究会は取り組みの目的を語ります。

1年かけて勉強

取り組むとなると徹底的にやります。香川からうどんの先生を招き、メンバーはみっちり勉強しました。そして、1年間かけて何度も試

佐治天文台長

香西洋樹の「望遠鏡って何だろう」

Vol.26 **誰が発明したの？**

レンズと呼ばれるガラス製の透明なものを通して物を見た人は、物が大きく見えることに驚いたでしょうね。このレンズを使って、眼鏡が作られました。

眼鏡屋さんのショウケースに飾られている眼鏡に老眼鏡と呼ばれる種類があります。この眼鏡に使われているレンズは真ん中が膨らんだ凸型で、凸レンズといいます。凸レンズの老眼鏡は、日本でもすでに徳川時代に大名たちが使っていました。天下のご意見番と自称していた(?)大久保彦左衛門が使っているのをお芝居の中で見たことのある人も多いと思います。

凸型があれば反対に凹型も作れますね。この2種類のレンズを組み合わせて組み立てられたのが最初の望遠鏡でした。最初に望遠鏡を作ったとされている人は、オランダの眼鏡師の1人ハンス・リップルスハイで、1608年10月2日、1本の筒の両端に凸レンズと凹レンズを組み込んで遠くを見る道具を作り、国会へ持参して特許を申請したと言われています。これが、望遠鏡が発明されたときだと言うわけですが、この話を聞き伝えに知ったガリレオ・ガリレイも実験を繰り返して望遠鏡の原理を突きとめ、望遠鏡を自作したのです。

望遠鏡の実力が知られてくると、軍事用に有効なことから秘密に包まれました。こうして、いつ、誰が発明したのか実状は不明のままのようです。



オランダの眼鏡師

ハンス・リップルスハイ

さじアストロパークでは、プラネタリウムにおけるデジタル投影機器・天体映像の記録および編集システム・出張観察会で使用する映像投影機器などを新たに整備しました。

公民館や学校に出張し、星空投影などを行えるとともに、プラネタリウムドームスクリーンいっぱい広がる迫力ある映像を楽しんでいただけます。詳しくはお問い合わせください。

StarWorld
見上げてごらん



サロンでは、みなさんの表情もなごみます

地域のためのサロン

ところで西尾さんは、この体験への取り組みを機に、はじめこの民俗資料館に入っ

作を繰り返しました。「自分で作るだけならいいんですが、体験観光なので、来られたお客さんにお教えできなければいけません。しっかりと体に身に付いてないと」とメンバーの北村ひとみさんは話します。

たそうです。「河原のみなさんも、この施設の中に入っているだけでも、実際に中に入ったことのある人は少なく。この懐かしい建物で、ゆったりと過ごしてもらうことはできないかなと考えたんです」。そうして昨年10月に始まったのが「かたくりっ娘」というサロン。毎週水曜日、午前10時から午後3時まで、コーヒーやお茶を片手に、いろいろ端でゆったりと過ごします。キヤッチフレーズは「自由時間、お茶しませんか」。口コミで広がり、地域のみなさんがお客さんとして訪ねてきます。

うどん鋭意改良中

今年の4月には、初めてのお客さんを市内から迎え、手打ちうどん体験を好評のうちにやり遂げることができました。この時は、うどん作りの各工程を、メンバーがそれぞれ指導しました。北村さんは「私は踏む工程を担当しました。こねた生地を実際に踏むのを見てもらったんですが、すぐにみなさんに飲み込んでいただけました」と、ほっとしたとのこと。

「河原は鮎のまちなので、鮎の干物をだしにしようと思っています。先日のお客さんからも提案があったんですが、モロヘイヤも麺に練り込むなどして、うまく活用できないかなと考えているんですよ」と西尾さんは意気込みます。

なお、体験のみ受け付けており、うどんだけ食べることはできません。

おいしくて河原らしい手打ちうどん体験。あなたもいかがですか？

手打ちうどん体験の問い合わせ

河原城風土資産研究会
☎ (0858) 85,0046